出羽三山の鳥類

出羽三山には、様々な鳥が常時生息しており、様々な渡り鳥がやってきます。深い雪原、急斜面、海に近い地形、およびブナ・トチノキ (学名: *Aesculus turbinata*)・ミズナラ (学名: *Quercus crispula*) の森が、野生生物に多様な生息環境を提供しています。

ここでは、数種類の猛禽が年中見られます。これらの種は食物連鎖の頂点にあり、この地域に動植物が豊富にいることを示しています。出羽三山で標高が最も高いところ (約 2,000m) では、イヌワシが空を舞っています。

羽黒山は、日本の数少ないアカショウビン繁殖地の 1 つです。この鳥には長くて赤いくちばしがあり、鳴き声も美しいので、見分けるのは簡単です。鳴き声は夏中聞くことができます。アカショウビンは、森や山の小川、また渓谷の近くにある、中が空洞の木に巣を作ります。この鳥の餌は、カエル、サワガニ、トカゲ、小さなヘビです。アカショウビンは渡り鳥であり、冬は南のもっと暖かい地域で過ごします。

オシドリも渡り鳥であり、ここには夏にやって来ます。オスの色鮮やかな羽は、伴侶を惹きつけるのに役立ちます。メスは灰色で、オスほど目立ちません。これは迷彩として機能し、自分の子どもを守るのに役立ちます。オシドリは、5 月初旬から卵を産み、池や小川の近くにある中が空洞の大きな木でそのヒナを育てた後、冬に備えて南へ飛び立ちます。

この地域でよく見られる他の種は、メボソムシクイ (標高約 1,200~1,700m の山地に生息する)、ウグイス、ビンズイです。より標高の低いところでは、クマタカ、オオタカ、ミサゴ、およびシジュウカラ科の様々な種が見られます。